日本医科大学千葉北総病院 整形外科専門研修プログラム

（２０２７年度版）

目次

1. はじめに
2. 専門制度の理念と専門医の使命
3. 日本医科大学千葉北総病院 整形外科専門研修プログラムの特徴
4. 専門研修の目標
5. 専門研修の方法
   5.1 習得すべき専門知識と技能
   5.2 学習方法
   5.3 研修施設とローテーション・地域医療
   5.4 日本医科大学千葉北総病院整形外科スケジュール表
   5.5 専門研修の評価
   5.6 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動など

6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 労働環境、労働安全、勤務条件
8. 専門研修プログラムの改善方法
9. 募集要項
10. 専門研修中の大学院進学
11. 専門研修からサブスペシャリティーへの移行

1. はじめに

日本医科大学千葉北総病院 整形外科専門研修プログラムは、専門研修プログラム整備基準に則し、内容が充実した魅力的なプログラムです。千葉県内の基幹病院（日本医科大学千葉北総病院）と都会大学型研修施設である日本医科大学付属病院をはじめとする当大学付属病院とも連携して研修を行い、さらに、ドクターヘリを有する当院救命救急センターの整形外科チームとも協力して研修を行い、整形外科専門医の取得を目指す実践的な研修が可能なプログラムです。

2. 専門制度の理念と専門医の使命

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため、整形外科専門研修プログラムは、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。

整形外科専門医とは、所定の研修プログラムを修了し、なおかつ専門医試験に合格した医師です。整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器にかかわる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。また、運動器全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供する使命があります。

3. 日本医科大学千葉北総病院専門研修プログラムの特徴

日本医科大学付属病院整形外科の専門医育成プログラムに巡ずるもので，豊富な臨床経験、診療に伴う喜びと重圧の経験、議論、勉強、医学の真実の追求、情報発信のトレーニング等によって、自ら考え、人々のために行動する整形外科専門医の育成を目指します。

本専門研修プログラムの特徴は、

① 幅広い臨床経験を可能とするバリエーションに富んだ研修施設を有する。
② 連携病院である日本医科大学付属病院にて大学院での研究と専門研修の組み合わせが可能である。
③ サブスペシャリティーへの継ぎ目のない移行が可能である。
大学病院でありながら地域医療に貢献できるプライマリ・ケアから高齢者医療を担える、幅広い視野をもった整形外科医育成を目指した研修が可能である。
④ 千葉県医師修学資金貸付制度のキャリア形成プログラム（新プログラム）に対応し、相談の上、研修プログラムの調整を行います。

⑤ 社会人枠の大学院進学を積極的に支援しています。また、研修修了後は連携病院である日本医科大学付属病院整形外科医局とも調整を行い海外留学などの更なるステップアップの機会も用意しています。

4. 専門研修の目標

①専門研修後の成果

本研修プログラムでは、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い臨床能力を身につけた整形外科専門医の育成を目指します。特に本プログラムでは以下の内容の修得に重点を置いた研修を行います。

1.) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
2.) 自立して、誠実に、自立的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること(プロフェッショナリズム)。
3.) 診療記録の的確な記載ができること。
4.) 医の倫理、医療安全等に配慮して、患者中心の医療を実践できること。
5.) 臨床から学ぶことを通して基礎医学、臨床医学の知識や技術を習得すること。
6.) チーム医療の一員として行動ができること
7.) 後輩医師に教育、指導を行うこと
8.) 地域医療の重要性を十分に理解して、地域住民の健康維持向上に貢献すること。

②到達目標(習得すべき知識・技能・態度など)

1.) 専門知識

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を涵養します。さらに、進歩する医学の新しい知識を修得できるように、幅広く基本的、専門的知識を修得する。専門知識習得の年次毎の到達目標を資料1(日本整形外科学会ホームページ参照)に示します。

2.) 専門技能

運動器疾患に関する幅広い基本的な専門技能(診察、検査、診断、処置、手術など)を身につけます。専門技能修得の年次毎の到達目標を資料2(日本整形外科学会ホームページ参照)に示します。

3.) 学問的姿勢

臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲(リサーチマインド)を身につけ、自らでクリニカルクエスチョンを設定し、解決できるようになることを目標とします。そのために、以下の行動目標を定めています。

i. 経験症例から研究テーマを立案しプロトコールを作成できる。
ii. 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。

iii. 結果を科学的かつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる。
iv. 研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意できる。
v. 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる。
vi. 統計学的検定手法を選択し、解析できる。

4.) 医師としての倫理性、社会性

医師が守るべき法律と医師に求められる倫理規範を理解し、遵守できる医師になるために、以下の行動目標を定めています。

i. 医師法等で定められた医師の義務を知っている。
ii. 医療法の概要、特に療養担当規則を理解している。
iii. 医療行為に関する上記以外の法律（健康保険法・薬事法など）を十分に理解して、遵守できる。
iv. 医療倫理、医療安全の重要性を理解し実践できる。
v. DOH(Declaration of Helsinki)、日本医師会の「医の職業倫理綱領」を知っている。
vi. 患者やその家族と良好な信頼関係を確立することができる。

また、患者およびその家族、医療職スタッフとのコミュニケーション能力を身につけ、関連する医療従事者とも協調・協力してチーム医療を実践することができる医師を目指します。

③経験目標（種類、内容、経験数、要求レベル、学習法及び評価法等）

1.) 経験すべき疾患・病態

整形外科研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性である。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様である。この多様な疾患・病態を別添する資料3：整形外科専門研修カリキュラムに沿って研修する。経験すべき疾患数と病態数については、資料3：整形外科専門研修カリキュラムを参照。

2.) 経験すべき診察・検査等

資料3（日本整形外科学会ホームページ参照）：整形外科研修カリキュラムに明示した経験すべき診察・検査等の行動目標に沿って研修する。尚、年次毎の到達目標は資料2：専門技能習得の年次毎の到達目標に明示する。Ⅲ診断基本手技、Ⅳ治療基本手技については3年9ヶ月間で5例以上経験すること。

3.) 経験すべき手術・処置等

資料3（日本整形外科学会ホームページ参照）：整形外科専門研修カリキュラムに明示した経験すべき手術,処置等の行動目標に沿って研修します。本専門研修プログラムでは、どの連携施設に勤務した場合でも、研修中に必要な手術･処置の修了要件を満たすのに十分な症例を経験することができます。必要な症例を経験した上で、経験豊富な指導医の指導のもとで、それぞれの施設の特徴を生かした症例や技能を、より専門的に学ぶことができます。尚、術者

として経験すべき症例については、資料3：整形外科専門研修カリキュラムに明示した(A:それぞれについて最低5例以上経験すべき疾患。B:それぞれについて最低1例以上経験すべき疾患。）疾患の中のものとします。

5. 専門研修の方法

5.1 習得すべき専門知識と技能

整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を涵養します。さらに、進歩する医学の新しい知識を修得できるように、幅広く基本的、専門的知識を修得します。専門知識習得の年次毎の到達目標を別添する資料1（日本整形外科学会ホームページ参照）に示します。整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する幅広い基本的な専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）を身につけます。専門技能習得の年次毎の到達目標を別添する資料2（日本整形外科学会ホームページ参照）に示します。

5.2 学習方法

1) 臨床現場で

① 1カ月の研修を1単位とする単位性をとり、全カリキュラムを脊椎・脊髄、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、研修領域それぞれに定められた修得単位数を修得し、3年9カ月で計45単位を修得します。

修得すべき領域と単位

脊椎・脊髄	6 単位
上肢・手	6 単位
下肢	6 単位
外傷	6 単位
リウマチ	3 単位
リハビリテーション	3 単位
スポーツ	3 単位
地域医療	3 単位
小児	2 単位
腫瘍	2 単位
流動単位（領域を自由に選択可能）	5 単位

② 整形外科研修カリキュラム（資料3、日本整形外科学会ホームページ参照）に掲げてある行動目標、一般目標に沿って指導医のもとで外来診察、手術、病棟管理業務等を通して

病態の把握、治療方針について学びます。

③ 160例以上の手術手技を経験し、そのうち術者としては80例以上を経験します。(疾患については整形外科研修カリキュラム(資料3、日本整形外科学会ホームページ参照)を参照して下さい。)

④ 定期的な勉強会、抄読会、症例検討会、専門研修病院合同カンファレンス、関連診療科合同カンファレンスを通して、最新の医療情報を修得し、各病態と診断プロセスを深く理解し、治療計画作成の理論を学び、また、他職種との協力や養成にリーダーシップを図れるようにします。

2) 臨床現場を離れて

① 日本整形外科学会学術集会時に教育研修講演(医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む)に参加します。

② 関連学会・研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修会、各種研修セミナーで、国内外の標準的な治療および先進的治療を学びます。

③ 日本医科大学整形外科が主催する教育研修講演(年4回で12講演、3年間9カ月で計45講演)に参加し、スペシャリストから多領域にわたる最新知識の講義を受けます。

3) 自己学習

① 日本整形外科学会や関連学会が認定する教育研修講演の受講、日本整形外科学会が作成するe-Learning、Teaching file、整形外科卒後研修用DVDなどを活用し学習します。

② インターネットによって日本医科大学中央図書館webサービスを利用できるのでどこにいても文献へのアクセスが可能です。

③ 各施設に基本的な教材は常備され利用可能です。

4) 専門研修中の年度ごとの知識・技能・態度の修練プロセス

① どの領域から研修を開始しても専門医としての基本的診療能力を期間内に獲得できます。

② 具体的な年度ごとの達成目標の詳細は、資料1(日本整形外科学会ホームページ参照)および資料2(日本整形外科学会ホームページ参照)を参照して下さい。

5.3 研修施設とローテーション・地域医療

千葉北総病院専門医育成プログラムでは、脊椎疾患・外傷を中心に基本的な疾患を幅広く研修します。地方 II 型の研修施設である千葉北総病院と、連携病院である日本医科大学付属病院(都会大学型研修基幹病院)、その他の大学付属病院、連携病院を活用し、各施設の特色を生かした研修ローテーションを組みます。ドクターヘリを有する基幹施設である日本医科大学千葉北総病院では、一般外傷から高エネルギー外傷まで広範囲に及ぶ外傷を治療対象としているので、指導医のもとさまざまな外傷に対する診断や治療技術を研修できます。手術の内容としては脊椎手術、人工関節手術、四肢の靱帯再建手術、骨折手術などが中心で

あり、救命センターとの協力関係にあることから脊椎脱臼骨折や骨盤骨折などの重度な外傷の治療にもあたります。研究面においては連携施設である日本医科大学付属病院とも協力して臨床研究、基礎研究を行うことが可能です。また他の連携施設である武蔵小杉病院、多摩永山病院、本川越病院）では各々の専門分野における活動（豊富な専門症例、学会発表、論文発表、学会での指導的活動、手術セミナー講師、講演会開催など）と地域医療を両立しています。いずれの病院においても、定式的な症例検討カンファレンス、研究カンファレンス、抄読会、勉強会を通じて臨床及び研究について幅広い知識と経験を身につけることができます。

地域医療について

専攻医は3カ月以上の地域医療研修が義務づけられていますが、当院は地域の拠点病院として第一線の医療を担っており地域医療・地域連携を学ぶことが可能です。通常の症例検討カンファレンス、抄読会、勉強会、病診連携の研究会などにくわえ、救命救急センターの整形グループとの症例検討カンファレンス、脳神経外科・麻酔科も含めた病診連携の研究会を主催し、臨床および研究について幅広い知識と経験を身につけることも可能となります。

基幹施設：日本医科大学千葉北総病院　（北総）
連携施設：日本医科大学付属病院　　（本院）
日本医科大学武蔵小杉病院（武蔵小杉病院）
日本医科大学多摩永山病院（多摩永山病院）
本川越病院

主なセミナー、講演会

4 月　新人研修会（講義，実習）
教室主催の教育研修講演（3 講演）
5 月　新人研修会（講義，実習）
7 月　教室主催の教育研修講演（3 講演）
9 月　那須高原合宿セミナー（講義，実習）
10 月　教室主催の教育研修講演（3 講演）
11 月　教室集談会・教育研修講演
1 月　教室主催の教育研修講演（3 講演）

施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方

本プログラムでは、日本医科大学千葉北総病院を中心に連携施設をローテーションして必要単位を取得するコースを準備しています。1年目は日本医科大学千葉北総病院での研修を通じて各専門分野の知識修得を目指し、2年目以降は各施設の特徴を活かして脊椎、上肢、下肢、外傷、リウマチ、スポーツ、小児、腫瘍、リハビリテーションと幅広い内容の研修を行います。

年次毎の研修計画

専攻医ローテーション例

	1 年目	2 年目		3 年目		4 年目	
ローテーションパターン 1	**北総**	**北総**	本院	本院	多摩	小杉	本院
ローテーションパターン 2	**北総**	本院	**北総**	本院	本院	小杉	本川
ローテーションパターン 3	**北総**	多摩	本院	**北総**	本院	本院	本川
ローテーションパターン 4	**北総**	多摩	小杉	本院	**北総**	本院	本院
ローテーションパターン 5	**北総**	本院	小杉	本川	本院	**北総**	本院
ローテーションパターン 6	**北総**	本院	本院	本川	多摩	本院	**北総**

北総（日本医科大学千葉北総病院）

本院（日本医科大学付属病院）

多摩（日本医科大学多摩永山病院）

小杉（日本医科大学武蔵小杉病院）

本川（本川越病院）

本院研修中に本院の研修ローテーションを使って地域医療研修を行う場合があります。

研修施設群と研修プログラム

専攻医単位修得例

	1 年目	2 年目		3 年目		4 年目		修了時
研修施設	北総	北総	本院	本院	多摩	小杉	北総	
脊椎・脊髄(6 単位)	3		3					6
上肢・手(6 単位)	3			3				6
下肢(6 単位)	3					3		6
外傷(6 単位)	3	3						6
リウマチ(3 単位)				3				3
リハビリ(3 単位)						3		3
スポーツ(3 単位)			1		2			3
地域医療(3 単位)		3						3
小児(2 単位)			2					2
腫瘍(2 単位)					2			2
流動単位(8 単位)					2		3	5
合計	12	6	6	6	6	6	3	45

北総(日本医科大学千葉北総病院)

本院(日本医科大学付属病院)

多摩(日本医科大学千葉北総病院)

小杉(日本医科大学武蔵小杉病院)

5.4 日本医科大学千葉北総病院整形外科 スケジュール表

	月	火	水	木	金
午前	外来	症例検討会 病棟回診 手術	外来	手術	外来
午後	病棟	手術	病棟	手術 リハビリカンファ 抄読会	病棟

5.5 専門研修の評価

1) 形成的評価

① フィードバックの方法とシステム

専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表(資料7)の自己評価欄に行動目標毎に自己評価を行います。また指導医評価表(資料8)で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後に、カリキュラム成績表(資料7)の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度評価を記載します。日本整形外科学会会員マイページで web 入力することとします。各施設の指導医は、抄読会や勉強会を通じて専攻医が最新の医療情報を修得する手助けをし、カンファランスの際には教育的な建設的フィードバックを行うことを心がけます。

②指導医層のフィードバック法の学習(FD)

指導医は、厚生労働省および日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、研修プログラムをより良いものにするように努めます。指導医講習会には、フィードバック法を学習するため「指導医のあり方、研修プログラムの立案(研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成)、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。

2) 総括的評価

①評価項目・基準と時期

専門専攻研修4年目の12月に、研修期間中の「研修目標達成度評価報告」と「経験症例数報告」に基づいて総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを修得したかどうかを判定します。

②評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行います。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

③修了判定のプロセス

研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。 修了認定基準は、

i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること(専攻医獲得単位報告書(資料8)を提出)。
ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
iii. 臨床医として十分な適性が備わっていること
iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること
v. 1回以上の学会発表、筆頭著者として1編以上の論文があること

の全てを満たしていることです。

④多職種評価
専攻医に対する評価判定に多職種(看護師、技師等)の医療従事者の意見も加えて医師としての全体的な評価を行い専攻医評価表(資料10)に記入します。専攻医評価表には指導医名以外に医療従事者代表者名を記します。

5.6 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間、合計6カ月以内とします。限度を超えたときは、原則として不足期間分の追加履修が求められます。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学や診療実績のない大学院の期間は、研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6カ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が遅れる場合もあります。
専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

6. 専門研修を支える体制

1) 専門研修プログラムの管理運営体制
基幹施設である東京大学医学部附属病院においては、指導管理責任者(プログラム統括責任者を兼務)および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては、指導管理責任者および指導医の協力により、専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には、添付した日本整形外科学会作成の指導医評価表や、専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、指導医と専攻医が互いにフィードバックすることによって、研修プログラムの改善に努めます。上記目的達成のために、専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。

2) 基幹施設の役割
基幹施設は専門研修プログラムを管理し、当該プログラムに参加する専攻医及び連携施設を統括します。基幹施設は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域で研修ができ、研修修了時に習得すべき領域の単位をすべて習得できるような専門連携施設群を形成します。専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。専門研修管理プログラム委員会において専攻医の最終的な研修修了判定を行います。

7. 労働環境、労働安全、勤務条件

労働環境、労働安全、勤務条件等は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等を以下のように配慮します。

i. 研修施設の責任者は、専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
ii. 研修施設の責任者は、専攻医の心身の健康維持に配慮します。
iii. 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
iv. 施設の給与体系を明示します。

8. 専門研修プログラムの評価とシステム改善

1） 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、各ローテーション終了時(指導医交代時)に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより、研修プログラムの改善を継続的に行います。その評価は研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出、研修プログラム管理委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

研修プログラム管理委員会は、専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることがないように保証します。

2） 研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査(サイトビジット)に対して、研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者、ならびに専門研修指導医及び専攻医は真摯に対応し、指摘事項に従ってプログラムの改善に努めます。専門研修プログラム更新の際には、評価の結果と改善策について、日本専門医機構の整形外科研修委員会に報告します。

9. 専攻医の採用と修了

①応募資格

・初期臨床研修修了見込みの者であること。

②採用方法

・基幹施設である日本医科大学千葉北総病院におかれた整形外科専門研修プログラム管理委員会は、整形外科専門研修プログラムをホームページや印刷物により毎年公表します。
・翌年度の整形外科専門研修プログラムへの応募者は、整形外科専門研修プログラム統括責任者宛に、所定の書類（申請書や履歴書、医師免許証の写し、初期研修修了証明書または修了見込証明書などの必要書類）を提出する。
・整形外科専門研修プログラム管理委員会は、書類審査、筆記試験、面接試験など必要に応じて施行した審査により、採否を決定します。

詳細は認定が得られ次第,下記 URL に掲載予定

https://www.nms.ac.jp/hokuso-h/info/recruit/resident.html

③修了要件

i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
iii. 臨床医として十分な適性が備わっていること
iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。
v. 日本整形外科学会が主催する骨・軟部腫瘍特別研修会を受講していること。
vi. 1回以上の学会発表または、筆頭著者として1編以上の論文があること。

10. 専門研修中の大学院進学

大学院進学を希望する場合は、専門研修のどの時点においても可能です。専門研修と並行して研究が行えます。もちろん専門医取得後の大学院進学も可能です。

11. 専門研修からサブスペシャリティーへの移行

整形外科専門研修の後にはさらにサブスペシャリティーの研修を行い、専門領域を持つことになります。整形外科には、脊椎・脊髄外科、関節外科、手外科、スポーツ整形外科、リウマチ、腫瘍など多くのサブスペシャリティーがあります。本専門研修では、サブスペシャリティーの研修が専門研修の4年目から始まるため、専門研修からサブスペシャリティー研修への移行を継ぎ目なく行うことが可能です。これまでにほとんどの医局員がサブスペシャリティー研修を行いその領域の専門的な整形外科医となっています。

専門研修指導医

川口 宏志 日本医科大学千葉北総病院 整形外科 部長
片岡 達紀 日本医科大学千葉北総病院 整形外科 医局長
高林 直也 日本医科大学千葉北総病院 整形外科 助教
原 義明 日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター部長
平尾 眞 日本医科大学付属病院 整形外科リウマチ外科 大学院教授
大島 康史 日本医科大学付属病院 整形外科リウマチ外科 准教授
小寺 訓江 日本医科大学付属病院 整形外科リウマチ外科 講師
北川 泰之 日本医科大学多摩永山病院 整形外科 部長
渡部 寛 日本医科大学武蔵小杉病院 整形外科 部長
松井 秀平 本川越病院 院長

日本医科大学千葉北総病院 整形外科へのお問い合わせ
〒270-1694 千葉県印西市鎌苅1715

日本医科大学千葉北総病院　整形外科部長 川口宏志
TEL：0476-99-1111
E-Mail：hiro-kawaguchi@nms.ac.jp